令和2年度　　学校評価総括表

教　育　目　標	◎「スポーツ(部活動)を通しての人づくり」をスローガンとし、たくましい体力と豊かな情操を育むとともに、確かな学力を身につけさせ、自己の進路を確保させる。 ◎社会の中で自立して生きていくための基礎基本を学ぶ学校。		総合評価
運　営　方　針 （重　点　目　標　）	○挨拶の励行や適切な言葉遣い及び時間を守る指導を徹底する。 ○校内美化の徹底及び学習環境と身だしなみを整えさせる。　　**<凡事徹底！>** ○授業、部活動、学校行事等に自主的･意欲的に取り組む態度を身につけさせる。		B
31年度の成果と課題	本　年　度　の　具　体　的　目　標	具　　体　　的　　方　　策	
平成31年度は、「学習意欲を喚起し、学力の向上を図る」「ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身につけさせる」などを重点目標として取り組んだ。学力補充、促進講座などを実施し、学習意欲の向上、成績不振科目の減少が見られ取組の成果が出てきている。これを進路実現に繋げさらに高めていきたい。また細かなことから繰り返し指導することで、ルール･マナーを守ることの大切さを理解させ、規範意識向上に向け継続した指導を展開していく。 学校評価アンケートから校舎内外の環境美化について改善点があり行きとどいていない面がある。併せて生徒の学校美化についての意識づけも大切であり、学校全体としても向上させていかなければならない。 学校評議員や地域の方からも、地域とともにある学校としての取組に対して一定の評価をいただいている。今年度から学校コミュニティースクールの取組を通して地域との連携強化を図るとともに、広報活動にもさらに力を注ぎ、活力ある学校づくりを進めていきたい。	･学習意欲を喚起し、確かな学力の育成を図り、主体的･対話的で深い学びの実現。	学習習慣の定着 ・授業を大切にし、基礎的、基本的な知識や技能を確実に習得させ、進路実現に向けて自ら学ぼうとする力を身に付けさせる。（予鈴入室、チャイム始業） ・学力補充講座や学力促進講座を積極的に活用し、学力を伸長する。 ･授業力の向上に務め、わかりやすい授業を目指す。	
	･ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身につけさせる。	規範意識の醸成 ・身だしなみ、挨拶の励行、適切な言葉遣い、遅刻の防止、礼儀、清掃活動の徹底等、基本的な生活習慣を身につけさせ、将来の社会人としての必要な資質･能力を培う。 ・凡事徹底！（当たり前のことをきっちりと行う。）	
	･部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることをとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	部活動等の活性化 ・部活動やボランティア活動等の体験的な活動に参加させることで達成感･成就感、自己肯定感を持たせ豊かでたくましい心身の育成を図る。 ・新入生部活動体験入部を組織的に取り組み、各部活動経営の魅力化に務め、部活動入部率及び競技力向上を図る。 ･「スポーツ（部活動）をとおしてのひとづくり」の推進及び地域社会活動への積極的な参画を推奨する。 ・生涯にわたって運動を楽しむ力を身につけ、自らの体力向上に向けて主体的に取り組む力を育成する。	
	･学校評価の推進を図る。	学校評議員会の活性化 ・学校改善ツールとして活用できる学校評価システムの構築、保護者との緊密な連携、学校評議員会での積極的な協議･情報交換をとおして全職員が学校づくりに参画する。	
	･情報の収集及び広報（情報発信）の強化を図る。	・生徒や保護者、教員を対象としたアンケートを行い、基本的な情報の収集に務める。また、学校のHPの更新をはじめ、いろいろな方面に積極的な広報･情報発信に努める。 ・学校案内パンフレットやオープンキャンパスの充実。 ・中学校訪問	
	･「学校コミュニティースクール」での熟議をとおして、地域との連携･協働を図り、地域と共にある学校づくりを進める。	･「学校コミュニティースクール」での熟議をとおして、学校、家庭、地域が連携･協働して地域に根ざした学校つくりを進める。 ・地域の幼稚園･小学校との交流活動、地域のスポーツイベント等への積極的な参画をはじめ「奈良マラソン」などへの運営にも参画する。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
総務部	・積極的な情報発信	・HPの内容の充実および各イベントの豊富な情報提供かつ迅速な発信を心がけ、中学校等外部への情報強化を図る。特に、部活動のページではHP編集の手引きを作成し各顧問に編集をマスターしてもらい、充実した内容かつ計画的にタイムリーな更新を年2回以上してもらう。 A　更新（行事）は7日以内	B	A	A	・ホームページを迅速に更新することができた。各イベントが終わり次第、ホームページの作成に取りかかれた。年度当初に各部活動でホームページ担当の先生方に簡単なマニュアルを配布し、期限までに各先生方のペースで更新をゆっくり行ってもらえるようにした。一方、一部の部活動を除く部活動ページでの継続的な更新依頼を定期的に行えていなかった。	・各部活動が大会など終了後、素早い更新ができるように掲示板などで定期的に促す。 ・毎月の学校行事予定がわかり次第、迅速な更新に努める。	・HPは、学校の情報発信の源として定着し、スピード化され、学校のアピールに役立っている。次年度も地域や中学生また、保護者に情報を発信し続けていただき、学校の広報活動に役立ててもらいたい。 ・コロナ禍で不安は残るが、育友会活動の再開を祈念します。
		・本校の魅力をより強くアピールできるよう、引き続き学校案内パンフレットの内容を充実させスピーディーな配付を心がける。	A			・学校案内のパンフレット担当者を中心にスムーズに作成・依頼することができた。見やすく、分かりやすいものになった。	・来年度パンフレットも学期が始まり次第、すばやく印刷に取りかかれるよう準備する。	
	・保護者および育友会との緊密な連携	・保護者が学校教育活動に関心を持ち、諸活動に進んで参加してもらえるよう情報を発信していく。また、ホームページ・育友会報誌（年2回発行）等を活用して育友会活動を広報し、活動への協力も促していく。さらにコロナウィルスに伴う情勢の変化に対応するため、本部役員と評議員との合同会議の開催方法や時間を弾力的に検討し、より多くの保護者の方に話し合いに参加していただけるようにする。	B			・育友会報については昨年度同様、生徒写真を多く載せ明るい配色を採用することで、充実した学校生活を伝えることができた。 ・コロナウイルスの影響で育友会の本部役員会や評議員との合同会議を一度も開催できなかったが、書面による表決や連絡を採用し、保護者に必要な情報を提供することができた。 ・文化祭時のラーメン店出店など数多くの育友会活動が中止となったが、育友会長との連絡を密にし、マラソン大会時には軽食と飲料を提供することができた。来年度通常の育友会活動に戻った際、本部役員の方々が一年間集まれなかったブランクを乗り越え、いかに組織として機能させられるかが課題である。	・来年度は今までに育友会活動を経験している3名の本部役員が中心となり、経験がない現本部役員や新たに就任する本部役員とコミュニケーションを密にしながら活動していく必要がある。そのために、例年より早いタイミングで会議の案内を出し、一人でも多くの出席者を確保できるようにしたい。また総務部から、会議や行事について一年間の流れを説明することで、本部役員一人ひとりが活動のイメージをつかむことができるよう配慮したい。	
	・魅力ある学校紹介行事の企画・実施	・オープンキャンパスの部活動見学・体験受け入れを強化し中学生にアピールする。また、全体会の更なる充実を目指し、企画・運営方法を工夫する。特に部活動紹介では、生徒が制作した動画の導入や生徒による説明を通じて、よりわかりやすく魅力あるものにして興味を持たせる。また、全職員が協力して学校紹介事業に参画する。 A　参加者満足度95%以上	B	A		・コロナウイルスの関係でオープンキャンパスができず、代わりにネット上で本校の様子が分かるようe－オープンスクールを実施した。校舎案内を含めた学校の様子や行事紹介、教務からのカリキュラムの説明、授業内容、部活動の練習風景、部員からのメッセージ等を掲載し学校の魅力が十分に伝わるものが配信できた。申し込みをした中学生は82人で、アンケートの回答は大変満足が50%、満足が42%で目標の95%以上は達成できなかったのが今後の課題である。	・申し込みが82人だったのに対して、動画の再生数が最大で45回だった。まずはログインしてもらうことがなければ本校の魅力を伝えられないので、見てもらうように呼びかけをしていかなくてはならない。 来年は従来の形に戻るかわからないが、今回の動画作成により学校の魅力を端的に伝えられることがわかったので、違う形でも動画をうまく活用していきたい。	
		・夏休みの部活動の見学や体験受け入れを積極的にし、各部活動3回程度の機会を提供することで中学生にアピールするとともに開かれた学校を目指す。	A			・中学生の部活動体験に代わるものとして、実技講習会を実施した。前後半で各部活動一回ずつ練習日を設定し参加者を募った。79人の生徒が参加し14人もの中学生が2回目も参加した。本校の部活動の様子を知り実際に活動することで具体的に進路決定に向けての一助となったと感じる。	・申し込み期日を守ってもらえず、保険の関係でバタバタしたり申し込みのフォームに保護者の名前と連絡先が未記入で中学校に確認をしたりということがあったので、これを見越して来年度は期日の徹底と申し込みフォームの改善をしたい。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改 善 方 策 等	
教務部	・学習習慣の確立 ・学習意欲の向上 ・基礎学力の定着	・本年度は、**予鈴前入室・予鈴着席完了**の完全実施、本鈴始業の指導を全教員により粘り強く継続し、落ち着いた学校をつくるためにその完全定着を図る。 Ａ 達成率 ９０％以上（生徒アンケート）	B	B	B	・本年度も全教員に取り組みを継続していただいた結果、**予鈴前入室**・本鈴始業の状況はほぼ定着し、習慣化した。特に1年生での定着は顕著である。 生徒アンケート「ややそう思う、そう思う」 H30 平均：78.8% H31 平均：81.3% **R02 平均：83.9%**	・現1年生が、学年を重ねてもこの状況を維持できるよう、また、次年度入学生についても同様の状況を実現できるよう全教員で一丸となって取組をお願いしていきたい。	・授業への取組意識の向上が見られ大変良い事だと思う。（予鈴入室）さらには（予鈴着席）の授業前の指導が定着、先生方の取組に感謝します。さらに考査前の学習等家庭学習への意欲向上に向け継続した指導をお願いします。 ・漢字、英語等の各種検定取得に向けても取組をお願いしたい。 ・生徒、保護者の大和広陵高校への思いも年々向上していると報告を受けOBとしてうれしく思います。
		・科目の観点別評価を各教科・科目の定期考査に明確に設定し、学習の達成度、学習要点を生徒に確実に伝えることで、生徒の授業や家庭学習に取り組む姿勢・意欲の向上を図る。 ・成績不振者講習の評価について、明確な評価基準を生徒・保護者に事前提示して理解を促すと共に、前向き・意欲的な姿勢を的確に受け止めて評価し、生徒の「やる気」の向上を促す。また、これにより本校の授業における生徒指導の基準周知を促すとともに、教員についても本校における指導のスタンスを再確認する機会とする。 Ａ1 私は授業に意欲的に取り組んでいる。 Ａ2 私は定期考査前に家庭での学習をきちんと行っている。（生徒アンケート）	B			A1：生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が **R02 平均：84.1%** H31 平均：79.1% H30 平均：77.9% A2：生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が **R02 平均：64.1%** H31 平均：62.0% H30 平均：63.8% 定期考査前の家庭学習意識は昨年度に比べ、やや向上した。 また、授業への取組の意識は大きく向上した。 ここ数年、全学年とも、生徒が落ち着いて前向きに授業を受ける状況へと変化していると。	・考査に向けて放課後、自主的に学校で学習する生徒が増えてきた一方、家庭での学習習慣がないままに入学し、その改善がなされていない生徒も多く、学習内容の一層の定着を図れていない。欠点総数、欠点保持者は年々減少しているが、定期考査の結果には依然如実に現れている。学習に対する目的意識や成績に対する危機感の希薄な生徒、学習習慣の改善を自ら図ろうとしない生徒、改善意識はあっても実行できない生徒に対し、どのように指導するか、効果的な方策と取り組みを各教科・科目等で横断的に立案し、実行していく必要がある。	
		・本年度も7月の期末考査前に学力促進講座を実施する。また、2学期中間考査前に学力促進講座を行い、学力の中位～上位層の生徒の学力向上を促す。また、この取り組みにより「基礎学力を支える学校」と共に「学力をさらに高める学校」という生徒・保護者の受け止めを図り、本校の全体学力の向上、校内の学習気運向上と愛校心の向上を図る。 （生徒アンケート） Ａ 普段も家庭学習に取り組んでいる ４５％以上 Ａ 私は大和広陵高校に入学してよかった。 ７０％以上 （教員アンケート） Ａ 「大和広陵高校にプライドを持っている。」 ７５％以上	C			A1：生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R02 **平均：35.6%** H31 平均：30.9% H30 平均：42.1% A2：生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R02 **平均：63.6%** H31 平均：61.7% H30 平均：61.1% 「大和広陵高校に入学してよかった。」との回答の割合が**3年連続して向上**した。 A2：保護者アンケート「ややそう思う」「そう思う」は H31 平均：87.3% から **R02 平均：91.3%** とこちらも向上した。 A3：教員アンケート「大和広陵高校にプライドを持っている。」 「ややそう思う」「そう思う」は H31 65.8% から **R02 平均：76.1%** へと10%向上した。	・「大和広陵高校に入学してよかった。」と感じている生徒、「大和広陵高校に入学してよかった。」と感じている保護者がわずかながらでも増加していることについて、全先生方の、本校ならではの取組の成果である。逆にそう思えない生徒の思いを改善できるよう解析し、様々な場面で生徒との良好な関わりを深めて生徒を育成していけるよう、厳しくも暖かく深みのある指導を引き続き継続していく必要がある。 また、全教員が大和広陵高校にプライドを持てるように個々に課題を追求し、改善に取り組む必要がある。	
		・生徒の基礎学力定着のために週1時間の「基礎学」の時間を実施する。 Ａ 「基礎学」が役に立っている ７０%以上	B			・生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が **R02 平均：69.1%** H31 平均：64.8%	・アンケート結果から、学力的に生徒を救済する取り組みとして重要な取り組みであり、特色となる取り組みの一つである。促進講座と並行しての実施は教員にとって大きな負担となるが、次年度も継続実施をお願いする。	
	・教育課程、評価方法等の改善	・令和4年度から導入する新教育課程を教科横断的に思案し、適切な教育課程を編成・完成させる。	B	B		・教科主任者による検討会を積み重ね、各教科の要望を吸い上げながら令和4年度入学生の教育課程（案）を作成できた。	・次年度、さらに必要な改善を重ね、教育課程・内規等検討委員会で提案し、確定する。	
	・情報の適切な管理と情報機器の有効活用	・新校務支援システム、新成績処理システムの管理運用技術について、分掌内での共有を図る。	C	C		・スムーズに新校務支援システムの運用を行うことができた。また、新成績処理システムについても、全学年において本年度より完全移行した。ただし、設定操作は単独の教員が行っている。	・新成績処理システムについて、教員が確実に処理を行えるように、知識と技術の伝達を図っていく。	

	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導部	・基本的生活習慣の定着	・挨拶を進んで行うことの出来るよう、生徒会本部役員・クラブ員が校門・玄関で挨拶運動を行う。	B	B	B	・例年生徒会本部役員を中心とした正門前での挨拶運動を本年度は実施することができなかった。 ・「学校評価アンケート」,「生活アンケート」において、「挨拶をしていますか」では、90%以上の生徒が「そう思う」又は「ややそう思う」と回答している。しかしながら依然挨拶のできない生徒が多数見受けられるのも事実である。	・教員からの「声かけ」を粘り強く行う。 ・生徒会本部役員だけでなくクラブ員と連携し、挨拶運動を効果的に行うとともに生徒自らの活動を喚起する。	・基本的な生活習慣の向上、特にあいさつへの意識が高まったこと、また問題行動、遅刻等の減少がうかがえる。一方、二極化ということであるが今後その部分への指導も必要だとおもいます。 ・登下校時、電車乗車時のマナー向上にも努めてもらいたい。 ・あいさつをはじめコミュニケーション力を付けることは重要である、さらなる向上に向けて取り組んでいただきたい。
		・全ての生徒に時間を守る生活習慣を身につけさせるため、遅刻生徒には放課後課題を課す。 **A　遅刻総数前年度比　　10%減**	B			・遅刻者数は前年度同時期より大幅に減少しているが、4,5月の家庭学習期間を考慮すれば前年度比約9%の減少と見なすことができる。生徒数の減少も関係しているが、粘り強い遅刻指導に一定の成果が現れていると考えられる。 ・近年、二極化の傾向が顕著であり、遅刻常習生徒の遅刻防止が喫緊の課題である。	・遅刻生徒に対する指導方法を検討し、より効果的な指導を行う。 ・家庭への依頼を強化するとともに、個別に面談等を実施することで意識を高める指導を行う。	
		・生徒との会話の機会に適切な言葉遣いを教員が教えることのできるよう、教員自身の意識を向上させる。 **A　生徒アンケート達成度　　90%以上**	A			・「学校評価アンケート」では、「本校は挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を適切に行っている」が約90%、「生活アンケート」の「学校の先生に対して敬語を使って話していますか」では、約97%の生徒が「そう思う」または「ややそう思う」と回答している。「暴言」による特別指導も明らかに減少している。 ・学校生活全般において間断なく指導を続けた結果、丁寧な言葉遣いや敬語の使用の一定の定着はあるものの、課題はまだ残っている。	・日常のあらゆる場面で言葉遣いに関する指導を徹底し、すべての教員による粘り強い取組を展開する。 ・人権教育部と連携し、LHR等において「正しい言葉遣い」「やさしい言葉遣い」を対面コミュニケーションだけでなく、SNSの使用に絡めて展開していく。	
	・生徒の規範意識の向上を図る	・高校生として身につけておくべき常識的な行動を取ることのできるように、日常の教育活動から公徳心を養う。	B	B		・全体指導として、「防犯教室」「薬物乱用防止教室」「身だしなみセミナー」等を従前の形から縮小しながらも実施し、自他の命の大切さや規範意識の基になる社会性や公共心の更なる向上を目指し取り組んだ。 ・問題行動は、前年度同時期と比べて約10%減少しているが、4,5月の家庭学習期間を考慮すると件数が激減したとは言い難い。問題行動の内容として、暴力・暴言等粗暴な事案は減少しているが、深夜徘徊、無断免許取得、喫煙等の指導は依然として多く、家庭との連携が不可欠である。	・校外、校内巡視を組織的かつ計画的に実施し、更なる強化を図る。 ・問題行動に至らないために、日々の生徒理解と個別の教育相談、面談を行うことや、教員間の「報・連・相」、保護者との連携を密に行うことで、未然防止・早期対応につなげる。 ・学年主任連絡会、SCとの連絡会を定期的に行い、包括的な情報共有を図る。	
		・日々の教育活動と生徒への声かけを間断ない「声かけ」を通して規範意識の向上を図る。 **A　問題行動総数前年度比　　10%減**	B					
	・部活動の活性化	・部活動に積極的に参加させ、その活動を継続できるように活動環境を整える。 **A　部活動入部率　　60%**	B	B		・各部活動では、練習時間や練習試合等の活動が制限されながらも創意工夫しながら年間を通して活動し、運動部・文化部ともに近畿・全国といった上級大会への出場や入賞等の成果が得られている。 ・部活動加入率53.0%(前年度比1.3%減)	・より多くの入部希望者が生まれるように新入生への部活動紹介や体験入部を工夫する。特に普通科生徒の運動部加入が急務であり、3年間所属し活動できるような指導体制の検討も必要である。	
	・道徳教育の推進	・道徳教育HRを通して、人間としての誇りと自立した心構えの育成、他人の気持ちを理解しようとする心の育成、心豊かな情操の育成を図る。	B	B		・第1学年は「われら人間創造」、第2、3学年は学年別指導案に基づき、道徳教育HRを展開した。また、学級活動においてもマナー向上を呼びかける展開を継続して行った。 ・校外からのマナーに関する苦情に対しては、学年集会やHRで生徒全員に注意喚起を行った。	・より生徒の心へ届き、日常の生活に現れるよう工夫を凝らしたLHRの展開を行う。 ・クラブ員を中心とした校内清掃活動、生徒会や各委員会による通学路清掃、花壇育成等の美化活動、地域貢献活動をさらに計画的に行う。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育部	「自他敬愛」の精神の高揚	・あらゆる教育活動を通して、生徒の人権意識を高めるとともに、互いに尊重し合う人間関係づくりができるように取り組みをすすめる。生徒アンケートで「人権意識が向上した」もの75%以上を目指す。	A	A	B	・生徒の「私は人権学習を通して人権意識が向上した」とアンケートで答えた割合は、「ややそう思う」と「そう思う」を合わせて83.9%であった。これは一昨年度71.9%や昨年度80.2%より段階的に向上しており、担任を中心とした先生方の取り組みのおかげである。一方で、同じ質問の教員アンケートでは、49.8%とずれが生じている。しかし、多数の生徒が人権問題をしっかりと考え、HRに参加したといえる。	・HRだけでなく、生徒が自主的に人権活動に取り組む環境づくりが必要である。具体的には部活動の人権研究部の活性化やそこから他生徒への働きかけなどが考えられる。また、生徒が自ら考えて参加できるHRの展開方法も、今後考えていく必要がある。	・人権意識の点検、向上に向け、先生方や生徒に研修等の機会を定期的に実施し、人権意識の向上に努めてもらいたい。 ・今年度は条件が厳しい中、人権講演会の実施ができ良かったと思う。今後定期的な実施を検討してください。
		・生徒向け人権講演会を実施し、さらなる生徒の人権意識の向上を目指す。 ・人権に関わる生徒の問題行動の早期発見と対応をおこなう。	B			・全校生徒対象のLGBTに関する人権講演会を企画した。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で全校実施ができなくなり、第3学年だけでの講演会になった。 ・本年度は人権にかかわる問題行動の報告はなかったが、生徒の差別的な発言を見逃すことがないように、引き続き先生方に協力を求めていきたい。	・人権講演会については、来年度もLGBTの内容で全校生徒に実施したい。ただしコロナ感染症の終息が見えてこない現状で、実施方法や内容に多くの課題が残る。　　・問題行動の発見と対応は迅速にできるように協力を求めていきたい。	
	人権HRの取り組みの充実	・学年と連携しながら人権HRの充実を図る。事前の学年研修でしっかり協議し、各クラスでのHRの展開をサポートする。	B	C		・1学期はコロナ感染症の影響で翻弄された。まず予定していた人権HRが休校措置でできなくなり、各学年実施予定のテーマでの作文課題に変えた。休校措置解除後の7月にHRの時間が確保された。また2学期も全校講演会が実施できずに、1年生と2年生はLGBT問題についてのクラス展開のHRとなったが、日程やVTR視聴場所の確保などの問題が生じた。	・コロナ感染症が落ち着く前提で、来年度は本年度と同じLGBT問題での全校講演を考えている。しかし流行の推移次第で大幅な変更もありうるので、それを見越した計画の作成も必要である。	
		・全職員対象の職員研修を実施し、また各種団体の実施する人権研修を確実に職員に伝える。	C			・本校の職員研修は本年度1回実施できた。外部研修はコロナ感染症の影響でほとんどが中止となり、開催の案内ができなかった。	・校内研修は来年度も実施していきたいと思うが、その内容はより先生方のニーズに沿ったものにしていきたい。外部研修は現在、来年度の見通しは不透明であるが、感染症の流行がおさまらないと実施できないので現状では推移を見守っていくしかない。	
	人権作文の取り組みの充実	・全生徒が夏期休業中の課題として人権作文に取り組むことにより、自己の人権意識を高揚させ、社会の様々な人権問題を直視する機会をつくる。人権作文の提出100%を目指す。	A	A		担任の先生の尽力のおかげで、長欠者などをのぞいてほぼ100%の提出があった。しかし、実態の解明は不可能であるが、他人の作品の盗作や、適当に書いて出せばいいやという低い意識での作成など、数値では見えない課題もある。	・インターネットからの引用などに何らかの対策が必要であると思われるが、生徒への啓発以外に具体的な解決策が見えてこない。引き続き具体的な方策を検討していきたい。	
		・人権作文を書く意義を浸透させ、生徒自らが自覚するため、夏休み前に資料の配布と事前指導を行う。また、締め切り日に未提出の者には提出指導を徹底する。	A			・生徒が書きやすいテーマを示し、字数を801字以上から401字以上に変更することで、取り組みやすくした。	・生徒に人権作文の書き方についてのプリントを配布しているが、この内容を生徒が取り組みやすいように工夫していく。	
	奨学金手続きの確実な実施	・各種奨学金の案内を生徒に確実におこない、書類等の準備や記入について細かな指導をする。	A			・コロナ関連で奨学金の条件や手続き方法が例年より変更されたものも多く、生徒への案内が大変であったが、漏らさず案内や書類作成ができた。	・奨学金の種類ごとに配布する書類や封筒の色を分けるなど、生徒も教員も確認しやすいものにする。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導 ｷｬﾘｱ教育	・進路目標の早期確立と望ましい職業観・勤労観の育成	・3年間を見通した系統的な進路HRや総合的な探究の時間・キャリア・パスポートの取り組みを通して、自らの将来を展望し、確かな目的意識を持って自己実現に向けて取り組む姿勢を育てる。 ・教育研究所と連携して、インターンシップに参加する生徒を増やし、職業意識を高める。 ・1．2学期末に「進路だより」を発行する。 A　生徒アンケート　満足度70％以上	B	B	・今年度から実施したキャリア・パスポート作成は、「コロナ」の影響により年度当初の実施が出来なかった。 ・教育研究所紹介のインターンシップ 夏期インターンシップ　「コロナ」のため中止となった。 冬期インターンシップ　2年生1名参加。貴重な体験が出来た。 春期インターンシップ　1年生2名参加申込。 ・今年度は、多くの進路行事が「コロナ」の影響を受けて中止となった。しかし、6月以降、予定を変更しながらも広陵町フィールドワークなど、総合的な探究の時間の充実に各学年の先生方と協力して取り組むことが出来た。 ・生徒アンケート結果　思う・やや思う　67.4％	・「キャリア・パスポート」の作成 ・記入例を「進路のしおり」に記載し、取り組みやすく工夫する。 ・新入生は、中学時代のキャリアパスポート提出。 ・3年時の調査書・志望理由書・履歴書作成につながるような取組となるよう工夫する。 ・インターンシップ参加への取組 ・教室掲示ではなく、各生徒に周知する。 ・参加生徒の増加に一層取り組む。 ・「進路だより」 ・「1人1社制」の見直しなど、高校生の就職慣行や入試の変更点などの情報を盛り込むよう工夫する。	・進路実現の為にも高校入学後、早い段階から生徒自身にしっかりと卒業後の進路を考えさすことが重要である。 ・次年度に向け、キャリアパスポートの取組の充実を期待します。 ・進学者数の増加が伺える、入試改革等に対応し、生徒に手厚い指導ができるようお願いしたい。
	・進路実現の支援	・生徒・保護者の考えを理解し、満足した進路が実現できるよう進路相談の機会を設ける。 ・各学年　進路ガイダンスの充実 ・個人面談 ・保護者説明会 ・進路講座の充実を図り、最後まで講座に取り組む姿勢を育てる。 A　生徒アンケート　満足度70％以上	B		・コロナウイルス感染拡大防止を受けて、4．5月が家庭学習期間となり、就職希望者には、電話による個別相談を実施。 ・　6月　就職希望者保護者説明会を2回実施。 ・　7月　総合型選抜受験希望者へのガイダンスを実施。 ・　9月　学校推薦型受験希望者へのガイダンスを実施。 ・11月　大学入学共通テスト出願希望者へのガイダンス実施。 ・摂神追桃進学講座・就職SPI講座・公務員講座の実施 今年度は、途中で参加しなくなる生徒も少なく、最後までやり抜く姿勢を持った生徒が多かった。 ・3年生も一般入試を受験する生徒が例年より多かった。 ・生徒アンケート結果　思う・やや思う　80.6％	・3学年　個人面談や保護者説明会の機会を設ける。 2学年　昨年度初めて実施した就職希望者への事業所説明会を来年度もぜひ実施したい。 1学年　奈良TIME　広陵町フィールドワークの充実 ー昨年度実施できた発表会を実施したい。 ・進学講座、就職講座の内容の充実 ・今年度初めて実施できた2年生対象の公務員講座立志舎から講師を招いて来年度も実施したい。 ・総合型選抜や一般選抜に挑戦する生徒のフォローを充実させる。	
	・進路保障の取り組みの強化	・就職指導について、企業訪問を充実させ、安定した求人件数を確保する。 ・各大学の入試説明会に参加し、新入試の情報を収集する。 A　企業年間訪問50社以上 A　大学入試説明会参加　15大学以上 A　学校斡旋就職希望者の内定率100％	B		・5月の事業所訪問を自粛し、封書による求人の依頼を実施した。しかし、コロナの影響により、今年度は求人数が200社程度減少。一次の内定率も70％を割り込み、生徒が希望する職種の二次応募可能な事業所が少なく職種の変更や、進学への変更を視野に入れた進路指導を実施した。 ・大学の入学者説明会も中止が多く、オープンキャンパスもオンラインで実施された。オンラインでの面接は、進学1件、就職1件あった。 ・学校推薦での就職希望者53名については、全員内定を頂くことが出来た。	・来年度は、更に求人件数が減少し200社～250社になり、今年度の半数程度になることも予想される。早期に生徒の希望職種を把握し、事業所への求人の依頼を行い、就職活動の支援を強化する。 ・来年度は、今年度以上に、オンラインでの面接が実施される可能性がある。事前に場所や担当教員の確保が出来るよう各分掌との連携をお願いする。 ・就職一次試験での内定率を向上させるために基礎学力や面接指導に一層力を注ぐ。	
	・学校外の教育力を活用したキャリア教育の推進	・高大連携校をはじめとする学校外の教育力を活用することで、キャリア教育のさらなる推進を図る。 ・フィールドワーク事後指導 ・生涯スポーツ科　大学での学び講座 ・公務員採用セミナー ・1学期末に職員研修を計画し、進路を取り巻く環境や指導方法などについて研修を深める。 A　職員研修を年1回実施する。 A　生徒満足度　70％以上	B		・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、校外との連携が例年通りには実施できなかった。 ・　5月　3年生進路ガイダンス　中止 ・　7月　職員研修　グループディスカッション指導法　中止 ・11月　フィールドワーク事後指導　出前授業　中止 ・　1月　1年体験型進路説明会　中止 ・この様な状況下でも ・　2年生対象　公務員ガイダンス（全6回予定）を月曜日の放課後20名程度の生徒を対象に実施することが出来た。 ・　10月　2年生進路ガイダンスに就職希望者を対象に、10社の人事担当者を招いて説明会を初めて実施することが出来た。 ・生徒アンケート結果　思う・やや思う　67.4％	・大学進学後はもちろん、就職試験でもグループディスカションが実施されていることを受け、グループディスカッションの進め方の職員研修を実施したい。 ・フィールドワーク事後指導として奈良大学地理学科の出前授業を計画する。 ・学校法人立志舎から講師を招いて、月1回のペースで公務員講座を実施する。 ・1年生対象の体験型進路説明会や2年生対象の「職種を理解する」ガイダンス実施を検討する。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
環境整備部	・校内美化の推進	・通常清掃活動の徹底をはかる。環境整備部の清掃点検を実施、清掃担当者にフィードバックし、清掃活動の充実をはかる。 A 部員による点検作業を実施し、担当者と協力し清掃の充実を図る。「あさがお」、職員朝礼を使っての啓発活動を行う。	B		B	・先生方の毎日の取り組み及び生徒への指導の結果、校舎内で、故意と思われるゴミを見かけることはなくなった。部員による個別の点検も実施するまでもなく取り組んでいただいた。しかし、細部に目をやると、汚れが残っていることに気がつかないケースもあった。日常生活の中で校内美化に対する意識を更に持てるようにしていきたい。	・先生方の校内美化に対する意識が更に高まるように、職員朝礼、職員会議等の機会に、適当な資料を使っての啓発活動をする。また、事務室と連携した必要な清掃用具の充実も図る。	・日々の清掃活動、クラブ員による一斉清掃の定着が、校内の生活美化の向上に繋がっているように思う。継続した指導、取組をお願いする。 ・危機管理問題について教職員、生徒の危機管理体制の確立と防災意識向上に向けて、地域と共に取組をしてもらいたい。
	・ゴミの分別の徹底	・各ホームルームにおける担任からの生徒への啓発活動を図るとともに、生徒美化委員によるポスター作成及び掲示する。それにより全校生徒の協力を呼びかけ、ルール遵守の意識を高める。（校内美化・ゴミ分別の徹底）　　A .生徒アンケート調査結果「ゴミが落ちていたら拾う。」50％以上。	B			・校内で、多くのゴミが散乱する光景は見ることが少なくなった。少しずつではあるが、生徒たちに自分たちで、学校をきれいにしようという意識を持つものが出てきたと思われる。そういう思いを持った生徒が萎縮しないように支えていきたい。	・新型コロナの影響で生徒美化委員による活動が少なかった。ポスターによる啓発活動、呼びかけだけでなく、美化委員を中核として、委員以外の生徒が活動できるような取り組みを考えていきたい。	
		・ゴミの分別の習慣化を確実にするとともに、集団における様々なルールの存在を認知させ、守ることの大切さを意識させる。（ゴミ集積場での確認） A　生徒のアンケート調査結果「分別に従ってゴミを捨てる。」80％以上。	A			・九〇パーセントの生徒が、意識してゴミの分別している。教室内のゴミ箱にも混在することがなくなり、間違って捨てるものに指摘できる生徒も出てきた。	結果に甘えることなく、生徒の意識が恥ずかしいと思い、取り組みに後ろ向きにならないように、更なる啓発活動をしていく。	
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇での草花の栽培管理（週2回の水やり作業を含む）を実施する。	B			・新型コロナの影響で、三学年合同での活動ができなかった。学年単位での活動に終始した。草花の栽培活動も年間2回を予定していたが、1学期の期末考査時の1回にとどまってしまった。1回きりではあるが、水やり作業は実施できた。	・変則日程のため、活動計画が制限された。来年度も不測の事態が予想される。生徒の活動が保障されるように、事前計画の段階から予定の多様化を図りたい。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
文化図書	・図書館教育の充実	・新入生対象の図書館オリエンテーション を始め、図書館にある本のアピールを各教室に掲示する、各教科の調べ学習に図書館を利用する等、学校活動全般において積極的に図書館の利用につながる機会をつくる。 ・図書館司書との連携を密にし、図書委員の活動を活発にし、図書館を活気あふれる場にする。 Ａ　貸出数　前年度同数以上	A	A	B	・貸し出し数は昨年度1133冊から1547冊と36％の増加となった。 ・シリーズ本や漫画を連続的に借りる生徒が増えていることや、休校やコロナ禍における教員による貸し出し数増、図書委員が選んだ本を学級文庫として置くといったクラスとしての利用もあり、大きな増加につながった。 ・また、図書館司書の協力により学期ごとに新着図書の一覧を各教室に掲示し、利用喚起を促した。 ・今年度は、4，5月が休校となったため、新入生対象の図書館オリエンテーションを実施せず6月に資料配付のみとした。 ・購入図書の予算額が減少し、年間を通しての購入本の計画が難しい（課題）。	・図書館イベントを効果的に実施し、生徒、教員が積極的に図書館の利用につながる機会をつくる。（おはなし会内容の吟味、文化祭等の展示の場としての利用） ・ニーズに合った図書を積極的に取り入れて、貸し出しの活性化を行う。	・昨年度より図書貸し出し数が増加している要因にクラスにおける学級文庫の利用と言った新たなものが現れた。これを機に学級文庫を広め読書をより身近な物にし、活字に親しむ機械を増やしてもらいたい。 ・文化祭行事がコロナの為に実施できなかったのは生徒にとって残念なことだったと思う。次年度コロナ禍が落ち着き実施できるようになればいいと思う。
		・図書委員等からの図書の紹介を視覚的にわかりやすくし、掲示する場所を工夫することで、より多くの生徒の目に触れる機会を作る。 読書感想文やストーリー創作HR、おはなし会を通して、生徒が読書に親しむ機会を設ける。 Ａ　読書感想文独自作品提出率の向上 （長期欠席者を除く）	A			・図書委員の活動方法を工夫した。例えば図書委員によるポップ、紹介文を作成し、館内で本と併せて紹介したため、視覚的にわかりやすくなった。また、カウンター係を全学年で担当したことで、どの学年からも利用者が増えるなど、図書館利用増につながった。 ・今年度は、ストーリー創作HRを教員の朗読により実施した。各クラス独創性のある作品も多く、内容に興味を持って取り組めたと考えられる。 ・おはなし会は、新着教員による本の紹介をする会を計画していたが、中止とした。今後は生徒の実態と合った内容を実施することが課題である。 ・読書感想文は全学年からの募集制とし、全体課題としては、ポップ作りまたは紹介文と取り組みやすいものに変更した。学校全体で良い作品を掲示するなど,生徒の取り組みが次年度へつながるよう意識作りを行った。	・おはなし会について効果的な企画をする。	
	・視聴覚教育の充実	・教員に視聴覚教材の紹介等を行い授業等での利用につなげる。	C	B		・今年度は視聴覚教材に関連する業務は行っていない。今後は、視聴覚教材を学校行事に利用していくことに推移していきたい。	・視聴覚のより良い利用を検討し、多くの学校行事の展開につなげる。	
		・視聴覚教材を利用した効果的な学校行事の展開に協力する。	B			・今年度は、文化祭の発表をリモート配信する計画を行った。校内のネットワーク環境では通信速度が不十分だったため、費用もかかる。また全学年を通し、催事の実施方法に賛同を得られなかったため実施には至らなかった。 ・視聴覚を文化祭に限らず、多くの学校行事の展開につなげることが課題である。		
	・文化活動の活性化	・文化祭において多様なジャンルの芸術鑑賞を企画し、様々な文化に触れる機会を生徒に与え、芸術を鑑賞する態度を養う。 Ａ　芸術鑑賞会事後アンケート満足度 85％以上	B	B		・今年度は芸術鑑賞、文化祭ともに実施することができず、書道部、美術部、吹奏楽部、文芸部による希望部のみで文化発表会を行った。 ・当日の舞台発表の参観は約20名と少なかったが、発表の機会が与えられたことは良かった。また、展示発表の参観は図書館に生徒が足を運ぶ好機となった。コロナ禍においても、文化祭や芸術鑑賞をどのような形で実施していくか、実施が可能かが課題である。	コロナ禍において、文化的行事の効果的な実施計画を行う。	
		・おはなし会や新春カルタ会など文化的 活動体験を積極的、効果的に実施し、国内外の様々な文化に触れる機会を持たせる。	B			・今年度は新春カルタ大会も実施することができなかった。文化的活動体験が乏しいため、様々な文化に触れる機会を作り出すことが課題である。		

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育部	・健康教育の実現	・生徒のニーズに合わせた資料を定期的に作成し、生徒の健康意識の向上に努める。また本人だけでなく保護者にも伝わるよう保健だよりを有効なものにしていく。 **A　学期に一回資料（保健だより）を発行する。**	A	A	B	保健だよりを4月・5月・6月・7月・9月・12月・2月に発行。本年度は特に新型コロナウイルスのことがあり、手洗い・マスク着用について継続の依頼や心身の体調管理や日常の過ごし方についての情報提供を多く行った。受診勧告は保護者の手に渡るよう面談で配布にしているが、受診率は未だに低いことが課題としてあげられる。	保護者の方々にも確実に目を通していただける機会であるため、三者懇談時の保健だより配布を継続する。医療機関受診を促すため、内容の一部を受診勧告に関することを取り入れたものとする。	・全国大会をはじめ多くの大会が中止され力の発揮場所がなくなり、また活動にも制限が加えられるなど、従来の活動ができなくなり非常に気の毒に思う次年度に向けてがんばってもらいたい。 ・部活動退部率の減少に向けて取組をお願いしたい。
	・保健室との連携	・保健室、来室生徒の状況について、学年・クラス担任と連携し、情報を共有する。 **A　学年会議等で情報交換を図る。**	B			休校や新型コロナウイルス対策のため早退措置を取っていたこともあって、本年度の来室者数は例年より少なかった。頻回来室の生徒や気になる生徒に関しては個別に連絡や相談を行い対応したが、全体の来室数や各クラスごとの来室者等を資料で提示することができなかったことが課題として残った。	学期ごと、もしくは学年会議ごとに、各学年へ来室数の提供を行う。今後は、気になる生徒の保健室での様子や、訴える症状等も記載した資料を必要に応じて作成し、連携・情報共有に役立てたい。	
	・食育の推進	・飲食物についての意識を向上させるため、HR教室に職に関する資料を掲示する。 ・運動部員の食事に対する意識を向上させる。 **A　食に関する講演会（部員対象）を実施する。**	A			食育担当者より1学期に清涼飲料水に関する食育だよりの発行、3学期からは食育に関する資料掲示を実施した。う歯のある生徒の割合が多いことは本校の課題の一つであるため、歯を大切にするという内容を含めた食育が必要だと考える。	食育担当者と協力し、HR教室に食に関する資料を掲示や保健だよりにも食育に関する情報の掲載などを行い、食に関する情報を目にする機会を増やしていく。	
	・生徒の体力向上	・トレーニングの必要性について理解させ授業でトレーニングを充実させることにより、トレーニング方法の習得や日常的に実施できる能力を育てる。また1学期の授業では10分間走を実施し、運動習慣も身につけさせる。 **A　学期中にトレーニングの評価を2回程度実施する。**	B	B		授業で10分間走は継続して実施できた。毎時間のトレーニングは方法を統一化し、丁寧に説明を加えることにより意欲的に取り組む生徒が増えてきている。各学期毎に2回の評価は完全に実行できていない。	10分間走やトレーニングは定着しつつある。今後は継続して行う中で生徒が意欲的に取り組めるよう工夫する。	
		・持久走を毎学期実施し、体力の向上を図る。 **A　従来の1，5倍で実施する。**	A			各学期を通して10分間走の加えて持久走（35分間）も実施することができた。持久走の補習に参加しなければいけない生徒の数も減少している。マラソン大会は時間オーバーの生徒はいなかった。	一部生徒が持久走の補習となっているので更に粘り強く指導する。また生徒が自主的に取り組めるよう工夫する。	
		・スポーツテストの意義を理解させ、その正しい測定方法や種目ごとのコツについて授業を展開し、各種目の数値を向上させる。 **A　全学年において「体つくり運動」の取り組みを充実させる。またスポーツテスト練習を行い記録向上を目指す。**	B			コロナ禍で授業時間数が不足し、事前にしっかり練習することはできなかった。また実施時期が遅くなり1500/1000m走は気温の高い中で行うこととなった。スポーツテストの記録は向上していない。	測定方法やコツについての授業展開に十分な時間が取れるよう計画する。	
	・運動部活動の活性化	・運動部員集会を行い、アスリートとしての資質の向上を図る。 ・毎週火曜日の清掃活動や各部の管理区域の整理整頓を徹底させる。 **A　運動部員集会の実施　毎月1回、学期に1回以上　運動部・文化部合同の清掃活動を実施する。**	B	B		部員集会は実施することができたが、毎週火曜日の清掃活動の実施は各部によってばらつきがある。また部室・管理区域の整理整頓は徹底できていない。	体育科教員が主となり、部室・管理区域の整理整頓や備品管理について徹底する。（**習慣化させる**）	
		・新入生体験入部制度を実施し、部活動への加入を促進する。 **A　体験入部を100%完了させ、新入生部活動加入率50%以上を達成する。**	A			体験入部は100%完了。1年生部活動加入率61，2%（2/16） 運動部加入率（年度当初）55，5%（年度末）50，1%	入部した生徒を人間的に成長させることが競技力向上に繋がることを指導者が共通理解して指導にあたる。また学校外に向けたPRを充実させ、生徒が部活動によって学校を選びたくなるような部活動となるように取り組む。（**入学志願者を増やす**）入部した生徒を定着させ、退部者を大幅に減らすために顧問、担任に加え保護者、中学時の顧問等との連携を図る。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談室	・広報と研修の充実を図る	・生徒や保護者に、スクールカウンセリングの案内を行う。 ・教職員、生徒向けに「スクールカウンセラー便り」を発行する。	A	A	B	・合格者説明会や新入生オリエンテーション・三者面談時においてカウンセリングルームの案内とスクールカウンセラー来校日の連絡を行った。 ・職員研修を1回実施した。（参加率78％） ・「スクールカウンセラーだより」を発行し（生徒向け9回、保護者向け1回）生徒理解に関するスクールカウンセラーからの助言や、ストレスへの対処法等の内容を掲載した。本年度は在宅教育の期間があったので、「スクールカウンセラーだより」の号外やカウンセリングの再開文書の発行を行った。相談件数（1月末時点）は前年度から微増し、先生方との情報共有の機会が増えている。	・カウンセリングルームの案内とカウンセラー来校日の連絡については継続していきたい。・職員研修でいただいた内容をもとに、研修テーマと実施時期を検討し、教育相談の充実に向けて研修を深めたい。 ・相談傾向として、長期的な支援を必要とする生徒が相談につながり、その支援過程で先生方との情報共有が増えたように思うので、その状況を継続していく必要がある。	・スクールカウンセラーとの連携向上で相談件数の増加が見られ有効利用がなされている。さらに連携を密にし、生徒等の相談の充実に向け取り組んでもらいたい。 ・支援の必要な生徒の実態を把握するために、中学校や保護者と連携をとり、医師やカウンセラーの指導を受けながら支援対応をおねがいしたい。
		・教職員向けに職員研修を実施する。	A					
	・支援の必要な生徒の把握に努める	・中学校訪問情報、生徒アンケート回答、各学年会議における情報交換等をとおして、支援が必要な生徒の実態を把握する。	B	B		・中学校訪問による情報をもとに支援を要する生徒の実態把握に努めた。次年度もより適切な支援を目指し、実態把握に努める。 ・個別の支援計画、個別の指導計画を作成し、学習支援が必要な生徒に対して、教科担当者と連携した個別の学習支援体制が定着してきた。今後も要支援生徒の支援に役立てていきたい。	・生徒の情報内容の詳細について、中学校の特別支援教育コーディネーターや、教育相談担当者から可能な限り早い時期に支援情報収集を行いたい。	
	・生徒についての的確な情報交換と教職員連携を図る	・定期的に教育相談室会議を開き、生徒についての情報交換を行う。	B	B		・教育相談室会議において、学年会議等の情報をもとに生徒理解の情報交換を行い、年度当初には「気になる生徒」を仮想PC上で全職員に提示し、情報の共有を図った。 ・効果的な支援を目指し、必要に応じてスクールカウンセラーと情報共有を行った。	・相談室における「気になる生徒」一覧の情報把握について、確実に最新の情報を共有できるようにする。 ・教育相談室会議においてスクールカウンセラーとの情報共有がスムーズに行われるように調整を行う。	
		・必要に応じて「ケース会議」、「教科担当者連絡会」を開催し、支援や学習指導が必要な生徒について情報交換を行う。また、定期的に職員会議で報告を行う。	B					
	・相談活動の充実	・生徒指導部や進路指導部、養護教諭等、他分掌と連携しながら、クラスや生徒の状況に応じた相談活動を実施する。	B	B		・学習に対して困っているという相談が生徒や保護者からある場合、クラス担任や当該学年、関係機関と連携をはかりながら支援認定を行っていきたい。 ・不登校傾向や、そのケースに応じて生徒と保護者、担任に対し、相談窓口になり、スクールカウンセラー及び関係機関につなげていきたい。 ・ストレスチェックを全学年、年2回行い、ストレスの高い生徒や2回の比較をクラス担任・学年主任を中心に情報共有し、生徒理解に努めた。	・学習支援を要する生徒に対する支援については、学校教育指導員・特別支援員・教育相談室・教科担当者で対応していくが、当該学年とも連携し、学習支援をしていく必要がある。	
		・不登校や問題行動等、ケースに応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関（教育研究所生徒指導支援室教育相談係・特別支援教育部等）との連携を図る。	B					
		・教育相談室を有効に活用する。	B					

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生涯 スポーツ科	実習の充実	・1年生野外活動実習 新型コロナウイルスの影響で、従来のキャンプ実習の実施が不可能となった。新たに形を変えた野外実習を企画、実施していく。	B	A	B	従来のキャンプ実習と計画を変更し実施した。日程が取れず本来の自然の中での活動時間は減ったものの、担任や副担任を中心に対応し、内容としては充実したものとなった。	次年度は従来通り曽爾でのキャンプ実習ができるように努める。	・それぞれの実習の取組にご苦労頂きありがとうございます。生徒たちにも思い出深いものになったと思います。次年度に向けて準備をしていただき、充実した取組になるようよろしくお願いしたい。
		・2年生スキー実習 インストラクターの指導を意欲的に受けることにより、効率よく上達できるようにする。 A：スキー検定4級合格者90％	B			コロナ禍での実施となり、各家庭の理解を得るのが難しいところも見られたが結果的には全員が参加し、事故・怪我なく終了した。担任の想いや生徒の成長が感じられた実習となった。	滑走日数が減ったため検定試験を実施しなかった。次年度は従来通り検定試験合格を目標に実習を計画していく。	
		・3年生 水上実習、熊野川周辺で新たな試みの実習をスタートさせる。下見・打ち合わせなどを入念に行い、達成感のある実習となるよう企画、実施していく。	A			今年度から水上実習の内容が大幅に変わったが、初年度としては充実度の高い実習となった。悪天候時の宿泊施設の確保が課題である。	教員の手間はかかるものの生徒が達成感を感じる実習となった。行き先の変更や内容の検討も視野に入れて、次年度の実習を考えていく。	
	部活動の充実	・日常の体育授業をとおして心身を鍛えるとともに、合理的で効果的な運動の実践が身につくよう指導していく。	B	C		各授業や担当者に関わらず、同じ事を繰り返し言い聞かせながら指導することで、習慣化させていく。積極的な運動意欲や学習態度を育てる必要がある。	教員間の意思疎通を深め、自ら意欲的に体力を向上させる運動に取り組む姿勢や、運動の合理的な実践を探求する姿勢を育てていく。	
		・生徒の悩みや問題に対して部顧問と担任が連携を図り、心と体の安定を保ちながら人間性、競技力の向上を目指す。 A:前年度を上回る競技力の向上	C			残念ながら高校生活半ばで進路を変更する者が数人見られた。全国大会が相次いで中止となってしまい比較対象が減ってしまったが、昨年度よりも全国大会・近畿大会出場数は減少してしまった。	部顧問と担任との連携に加え、部顧問及び担任から家庭への連絡を事あるごとに行い、理解と協力を得るようにする。また出身中学の顧問に対して、定期的に近況報告を行い、側面からの支援をお願いすることも必要である。	
	学力向上と進路指導	・日常の授業を大切にし、聞く姿勢や理解、考える力をつける。学習活動優先を生徒に理解させ、授業や学校生活の様子など関係教員で情報共有し、連携を図っていく。 A:学期末の成績不審者講習対象生徒各学年 10％以下	B	B		学習習慣のついていない生徒が多いことから、関係職員で情報共有し、授業を大切にすることを繰り返し言い聞かせ、徐々に習慣化するよにする。特にできない生徒に対しては、抽出しノートチェックや授業担当者への質問など行わせる。	日頃の授業やHRなどの細かなところまで徹底していき、考査などの点数につながるように継続していく。	
		・将来、体育・指導者を志す進路希望者数を増やしていけるよう、アプローチしていく。入学志願者の減少傾向に対策していく。 A：入学志願者数今年度以上	C			全県的に公立高校への志願者が減少する中、入学志願者は昨年度より2名減。定員を割ってしまった。積極的に中学校に出向き、学校をアピールしていく必要がある。	体育科教員が中学校訪問を数多くおこない、生涯スポーツ科及び部活動について理解していただき、中学校教員との繋がりを作る。入学した生徒は手間暇をかけて責任を持って成長させることで信頼関係を築き、恒常的に生徒を送り込んでもらえるようにする。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校事務	・授業料の納期内収納	・過年度の未収授業料が発生した場合は、その徴収事務取扱要綱等の関係規定に基づく手続きを着実に執ることにより、未収の解消を図る。 ・現年の授業料については、事務職・教職の連携を密に文書通知や電話、対面での納入啓発を図る。 ・就学支援金制度についての周知を徹底し、遺漏無くその申請が行われるよう啓発していく。	A	B	・過年度の未収については、令和元年度に解消済であり、在校生にかかる授業料徴収については、納期を超えた未収分についての関係規定等に即した督促発付が数件あったものの完納済。 ・就学支援金制度については周知に努め、その適用は十分に図られている。	・在校生に係る授業料徴収については、就学支援金制度の周知適用を図ることにより、未収額の発生を抑えていく。	・コロナ禍への対応ありがとうございます。引き続き、学校環境の向上、経費節減にむけて継続した取組をお願いしたい。
	・光熱水費等の節減	・季節に応じた電力消費となるようデマンド監視システムの効果的な活用を図る。 ・省エネ環境意識の醸成を図り、無駄のない節電、節水に努め、経費の縮減とともに節電器機等への改修も行いつつ効果的な活用への工夫に取り組む。	B		・電気使用料については、空調設備の増加やコロナ禍による換気対策等により、デマンド監視システムの設定値を大幅に上げざるを得なかったため、全体的な電気使用料は、前年度比で約15％増であった。水道使用量については、節水意識・節水行動に努めたことにより、17％減の数値で推移したが、コロナ禍での換気対策により、灯油の購入量も前年度比で約10％増加している。 ・照明器具を修理する際には、LED器具に入替をし、コロナウイルス対策として、2月に普通教室にオゾン発生機（除菌対策）を導入した。今までよりは換気の頻度は軽減できるが、今後も衛生対策と両立させながら、省エネルギー対策を行っていく。	・今後とも、教職員だけではなく生徒とも協力し、省エネ意識の涵養、節電行動に努め、デマンド監視システムを有効に活用しながら電気使用料の縮減を図っていく。また、中期的にはLEDなどの省エネ機器への移行を積極的に進めていく。 ・校舎棟の施設・設備の老朽化による漏水が発生するようになってきており、それらの早期発見及び対処に努めていく。また、トイレ等の設備の入替等を進めていく必要がある。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣の確立	・端正な服装・頭髪を心掛ける。 A　自分できちんとできていると思う生徒 85%以上	A	A	B	端正な服装・頭髪をきちんとできていると思う生徒は、98．8%であった。コロナ渦で年度当初にHRが多くあり、身だしなみについては各クラスで教育してくださった結果であると考えられる。また、学年としても身だしなみを大切にするという目標を設定・実行した結果だといえる。	今年度の学年目標は「時間、あいさつ、身だしなみ、敬語、仲間、素直な心を大切にする」であった。第1学年団として、基本的生活習慣の確立、集団生活を行うための心構えを年間を通じて発信してきた。概ね、目標は達成したが、完全なものにはなりきっていない。そこで、次年度については今年度よりも生徒一人一人が自律し、目標に向かって学業や部活動、家での生活に努めていくことができるよう、学級担任・副担任を中心に、よりきめ細やかな指導をしていく。また、卒業後の進路についても、決定していけるだけの準備を進めていく。教員間、教員保護者間の連携をはかりながら、充実した学校生活、将来を見据えた言動をすすめていく。	・基本的生活習慣の確立、学習活動（特に進路を見据えた家庭学習）に対する意識の向上に向け、引き続き指導をお願いしたい。
		・社会や学校のルールを守る A　自らあいさつをしていると思う生徒 85%以上	A			自らあいさつをしていると思っている生徒は、99．4%であった。学校全体としてあいさつする先生方も多くおられ、生徒が校内を歩けばあいさつに出会う環境もあり、徐々にではあるがあいさつできる生徒が増加したように考えられる。各クラス、学年団としても率先してあいさつに取り組んだ結果である。		
		・遅刻の防止 A　遅刻数前年度比5%減	A			昨年1年生との同時期（6月～翌年2月）の比較によると、36%減を達成した。各学級担任・副担任による働きかけと、保護者との連携により、中学時不登校であった生徒や遅刻常習であった生徒も、同じ思いで改善に向けて取り組んだ結果であるといえる。		
	基礎学力の向上	・予鈴で授業準備をして着席 A　自分できちんとできていると思う生徒 85%以上	B	B		自ら予鈴着席を実行できていると思っている生徒は68．8%にとどまったが、多くの生徒は教員に促されながらも、次授業の準備をし、着席できていたように思う。	予鈴着席により、授業に取り組む姿勢を向上させていく必要がある。各学級にて指示していくことで、生徒の自覚を促していく。基礎学については、勉強プリントをより真剣に取り組み、基礎学力の重要性を生徒自身に気づかせていけるよう、各学級にて働きかけていく。	
		・「基礎学」の充実 A　小テスト合格率85%	B			基礎学の小テストの合格率は74．4%にとどまった。基礎学力は年々低下していることが原因と考えられる。その一方で、やり直しプリントは早期に提出し、提出期限を早めに設定するも、ほとんどの生徒は期限内に出せていた。		
	部活動への参加	・積極的に部活動へ参加 A　50%以上	A			部活動加入率は61．2%（2月16日現在）である。入学当初の部活動体験入部を通じて、また学級担任・副担任の声掛けにより、入部への意欲が高まったことが要因であると考えられる。	各学級と部活動顧問間で連携をとりながら、3年間継続して活動できるよう、はたらきかけていく。加入率を向上させることは次年度はあまり見込めないが、部活動に加入していない生徒には学級担任・副担任から声掛けをしていく。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	・高校生として、基本的な生活習慣を確立させ、ルール・マナーを守る態度を養う。	・HR・学年集会等で服装を生徒自ら正すことの大切さを教える。 Ａ　生徒アンケート達成度85％以上	A	B	B	・男子生徒の髪型で帰宅改善指導をすることがあった。 ・生活アンケートでは99％の結果となったが、実情はカッターシャツが出ていたり、女子が化粧をしていることがあった。今後も生徒に正しい服装、頭髪などを意識させ、自ら行動できるようにしていく必要がある。	・頭髪不備の者の多くは、極端な刈り上げがほとんどなので、散髪時に注意するように指導する。 ・欠席遅刻では、決まった生徒が何回も繰り返ししている状況であるので、その生徒の意識を変え、家庭とも連携を取っていく。 ・来年度には最高学年になるので、後輩の模範となる行動をするよう指導していく。校内美化に努める姿勢も多くの生徒は持っているので、更に丁寧さをもってできるように指導する。	・基本的生活習慣の確立、学習活動（特に進路を見据えた家庭学習）に対する意識の向上に向け、引き続き指導をお願いしたい。
		・HR・学年集会等で毎日登校することの大切さ、時間を守ることの大切さを教える。 Ａ　欠席数・遅刻数前年比5％減	C			・昨年度は欠席総数860日、遅刻総数425回であった。今年度は欠席総数837日、遅刻総数398回であった。前半は休校であったのに数字は依然高い。来年度も減少するようにしたい。		
		・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 Ａ　生徒アンケート達成度85％以上	A			・様々な場面でルールを守る大切さを伝えてきたことで、その理解はしており、行動に現れてきている。しかし、登下校中の苦情がなくならないように、教員がいないときのモラルの低さが課題である。		
		学習環境を整え、積極的に校内美化に努める姿勢を養う。 Ａ　生徒アンケート達成度85％以上	A			・教室での環境はどのクラスでも整っている。 ・トイレや廊下などの共用スペースにおいては、ゴミの分別ができていないことがあり、常に校内美化に努めるようにすることが必要である。		
	・学習習慣を身につけさせ、学校生活を充実させる。	・予鈴での着席を徹底し、チャイム始業の定着をはかる。 Ａ　生徒アンケート達成度85％以上	A	B		・1年間を通して、教科担当の先生の協力もあり、ほとんどの生徒が予鈴着席ができていた。今後は、自ら行動できる意識を養うようにしたい。	・生活アンケートでは達成度は上回っているが、教員の実感としては、学習習慣が身についているとは思えない。課題の工夫などをして、この不一致を改善し、今後も学習の大切さを伝え、自らの進路実現につなげていきたい。	
		・小テスト・課題提出を含め学習の大切さを教える。また、放課後の時間を利用し英検などの資格取得の意識を高める。 Ａ　生徒アンケート達成率85％以上	B			・課題提出に追われている生徒もいたが、多くは学習の大切さを理解できている。 ・放課後の時間には、英検5名、漢検8名受検をした。		
	・積極的にクラブ活動に参加させる	・部活動参加を積極的に勧め、多くの生徒を、クラブ活動に参加させる。 Ａ　クラブ加入率　50％以上	B	B		・生涯スポーツ科もいれて約54％となり目標を達成することができているが、普通科だけの加入率は約42％となっている。普通科の生徒は部活動を通し高い自己実現を達成することよりも、自分の興味関心があることを優先し、忍耐強く行動することを避ける傾向があるように思われる。	・すぐに楽をしたがる傾向のある生徒が多いので、何かを我慢しないと自分の望むものは手に入らないことを伝えていく。楽をしてばかりでは、本当の意味での充実感や達成感は得られないことを伝えていきたい。	
	・諸活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	・HR・集会や校外学習、修学旅行等において自ら企画し行動できるようにする。 Ａ　生徒アンケート達成率80％以上	A	A		・校外学習において生徒自ら企画し実施することで、積極的に行事に参加することができた。 ・修学旅行でも同様に企画していたが実施できず。スキー実習では概ね積極的に取り組めていた。	・この一年間の経験を活かして来年度は諸活動を通して学校に入学してよかったと思えるようにしていきたい。そのためにもより多くの生徒が自ら考え行動できるようにしていきたい。	

評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改　善　方　策　等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	・学習意欲を喚起し、授業を大切にして学力の向上を図る。また自己の進路実現のため、積極的に行動する姿勢を育てる。	・予鈴着席・チャイム始業の定着をはかる。 A　生徒アンケート達成度90%以上	B	B	A	生徒アンケートでは、チャイム前着席85.0%　真剣な授業態度84.0%の生徒が実践している。予鈴で教室には入るが、準備という面に関しては取りかかりが遅い。学校での学習態度、取り組みは「成績の重要さ」は多くの生徒が理解しているので徐々ではあるが、良い傾向にある。	教師が必ず早めに教室に行き、生徒に当たり前であることを意識づけさせ、チャイム着席から授業の準備まで徹底させる。	・基本的生活習慣の確立、学習活動（特に進路を見据えた家庭学習）に対する意識の向上に向け、引き続き指導をお願いしたい。
		・考査・課題提出等を含め学習の大切さを教える。 A　生徒アンケート達成度90%以上	B			生徒アンケートでは、真剣に授業を受けた生徒84.7%、考査前家庭学習に取り組んだ生徒64.7%、期限を守り課題を提出した生徒は92.1%となっている。課題をしっかり提出する習慣は大半の生徒が身についているが、家庭で積極的に、一生懸命学習に取り組んだ生徒がやや少ない。	進路決定までの意欲が学年末まで継続出来ていない傾向があったように思われる。生徒に対して、学習・勉強するということは進路決定だけのものではなく、将来社会で生きていく上で大切なものであるという認識を持たせる必要がある。	
		・生徒の進路決定率の向上を図る。 A　進路決定達成率85%以上	A			生徒アンケートでは、91.2%が決定したと答えている。また自分の進路についても93.0%が満足していると答えている。自らの意志で進路を決定しようとする者が若干減っているが、自分の進路実現のためよく頑張ったように思われる。	多くの生徒が満足している結果になっているが、今後、離職や進路変更などしないかどうかの心配な面がある。2年生時から具体的な進路を示し、長期的な期間をもって進路決定を進めていく必要がある。	
	・諸活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	・最上級生として、部活動や委員会活動にその中心となって取り組む。 A　生徒アンケート達成度85%以上	B	B		生徒アンケートでは、部活動参加生徒の84.9%、委員会活動には67.8%が良く取り組んだ。部活動については、入部している生徒は積極的に取り組んだ。委員会活動にはやや積極性に欠けていたように思われる。	3年生として、部活動に積極的に取り組んでいた。委員会活動に新型コロナウイルスの影響もあり、十分に活動できなかった。より一層の自覚と責任感を持たせる指導が必要である。	
		・学校行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。 A　生徒アンケート達成度85%以上	A			生徒アンケートでは、学校行事に86.0%が取り組んだ。最後の学年として球技大会・体育大会において積極的に取り組んだ様子が見られる。	文化祭は中止になったが、他の学校行事には積極的に取り組み、最後の学校行事を充実させることができた。	
	・社会人として必要な生活習慣やマナーを身につける。	・正しい服装をすることの意義、大切さを理解させ、実践させる。 A　生徒アンケート達成度90%以上	A	A		生活アンケートでは、97.2%が大切さを理解している。またそれを96.5%の生徒が実践したと答えている。大半の生徒は制服を正すことの必要性を自覚し、正しく制服を着用することができた。靴下に関しても正しく着用することが定着した。	進路（就職・進学）を見据えた「正しい着こなし」を自覚させ、日常のこまめな注意、指導などから実践させていくことが重要である。	
		・しっかり挨拶をする大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A　生徒アンケート達成度90%以上	B			生徒自身が挨拶する大切さを理解し、面接指導や日々の指導により挨拶する生徒は増加したと思われる。しかし、挨拶をする習慣がない生徒も若干名いるように思われる。	部活動している生徒は、比較的挨拶の習慣がついているのでしっかり実践できている。他の生徒がしっかりと挨拶ができていない様子が感じられる。	
		・正しい言葉遣いの大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A　生徒アンケート達成度85%以上	A			生徒アンケートでは、96.4%が正しい言葉遣いをしている。1年生時より、正しい言葉遣いの徹底を学年目標に掲げ、その指導効果もあり定着した。	正しい言葉遣いや挨拶は社会人として必要最低限のことであり、それが当然で当たり前のことであると考えるまで継続して指導していかなければならない。教師側からの声かけと共に進路に繋がる様々な機会で伝えていく必要がある。	
		・ひたむきに取り組む大切さ、時間を守る大切さを理解させる。欠席・遅刻をしないように指導する。 A　欠席数・遅刻数前年比20%減	A			生活アンケートでは、98.6%が毎日登校する大切さを理解し、100%（全員）が時間を守る大切さを理解している。欠席数は、2年生時の43.0%減、遅刻数は5%減になっている。年間を通して、欠席・遅刻が少なかったことにより、落ち着いた雰囲気でSHR、1限の授業に臨むことが定着した。ごく少数の特定の生徒が繰り返す傾向があったが、遅刻指導においても当日に指導を受けることも定着した。	欠席数については新型コロナウイルスの影響もあり、昨年度より大幅減になった。全体の数としては大幅に目標達成されているが、一部の生徒が多数の欠席・遅刻をしている。その生徒の自覚を促すと共に家庭生活のあり方を改善させる必要がある。	